

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所独自の理念を作成し、管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解している。</p>	○	<p>独自の理念を作成し、地域の中でその人らしく暮らせる様買い物に行ったり、地域の行事等に積極的に参加している。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の実践に向けて、日々のサービス提供場面に反映させられるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>全職員に周知はしているが、職員によって理解力の違いがあり徹底されていないので、勉強会等で理解を深め、今後も継続していく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>事業所内に理念を掲示しているが、施設の構造上見やすい場所とはいえない。パンフレットには記載していないが、説明文書等には記載している。事業所利用時に理念の説明を行っている。 地域の人に対して、説明会などは行っていないが、今年の夏祭りの時に地域の人を招待し、説明を行った。ホーム便りにも掲載し浸透を図った。</p>	○	<p>地域の方へ理念の浸透を図る為、交流を深めていく。</p>
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>近隣の方たちには、日頃より挨拶を交わし交流を図っている。開設時に近隣の方への挨拶に行き事業所を理解していただくために見学に来て頂いた。 認知症の予防普及活動への職員派遣については機会がなく取組んでいない。実習生やボランティア等の受け入れについてもまだ機会がなく取組んでいない。 地域の中学生の施設見学を受け入れ、入居者との交流を図っている。</p>	○	<p>地域の町内会や民生委員、老人クラブや商店等に事業所を理解してもらうための交流を図っていきたい。外部の人の受け入れや認知症の予防普及活動への職員派遣を行い、共に学びながら事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元していきたい。 実習生やボランティア等の受け入れは機会があれば行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の狙いや活用方法についてはミーティング時に説明し全職員に周知している。外部評価については、評価の狙いや活用方法、自己評価などに取り組んでいる。外部評価については真摯に受け止め改善策について検討したいと考えている。	○	評価の結果について、今後のより良いケアサービスの提供につなげる為、改善策について検討していく。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに会議の意義や役割を理解してもらい積極的に参加してもらっている。司会者は皆の意見を聞きだすために指名するなど配慮している。外部評価については報告し、サービスの質の確保と向上につなげている。	○	会議の開催日時を年間で計画を立てると共に事前に案内通知を送り、出欠の有無を電話で確認している。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、疑問点や問題が生じた際に、相談や指導を受け、問題解決に向け積極的に働きかけを行い、町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後も利用者の利便性の向上や生活の質を高めるために町との連携を図っていく。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の家族に権利擁護の制度を利用している方が入居された為、勉強会を開き理解を深めた。	○	今後、利用者や家族等に権利擁護に関する制度について情報提供や利用の支援等が必要な方には支援していく。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行っている。管理者は、職員の日々のケアの提供場面を観察する等、虐待を未然に防ぐよう努めている。高齢者虐待を発見した場合の取り決めは特に決めていなかったが、発見した場合は直ちに止めさせ施設長の支持を仰ぐことにしている。	○	今後、外部研修へは積極的に参加し伝達講習などで全職員に周知徹底していきたい。虐待を発見した場合の対応方法について全職員が理解している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者や家族等に事業所の理念等ケアの方針や取り組み等について説明している。利用者や家族等の疑問や意見を引き出すために、以前に質問のあった内容について説明したり表情や視線など注意深く観察している。	○	今後も、十分な説明を行い理解・納得の基契約を結んでいく。 退居の際には、契約に基づき利用者や家族等に説明を行い、同意を得ている。又、退居先の情報提供や支援を行っていく。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時声かけを行い、生活上の問題点がないか聞き取りを行っている。利用者の言動を注意深く観察し本人の不満や意見を察するよう取り組んでいる。 利用者が外部に意見等を話せる機会は作っていない。今まで大きな苦情は特にはないが相談の内容によって速やかに対応している。	○	今後も利用者が意見や苦情を表出し、運営に反映させていけるよう取り組んでいく。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態について、面会時に報告し、変化や問題のあったときには電話等で必ず報告している。金銭状況の定期的な報告は利用のあった場合には報告している。職員の異動等利用者へのサービス提供体制に変化があった時にはホーム便りで報告している。	○	今後、利用者の暮らしぶりや健康状態については、面会の少ない家族には定期的に行っていきたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見・不満・苦情を表せるよう努めているが、現在のところ意見や不満・苦情等はきていない。	○	運営に関する意見受付窓口は継続的に家族等に周知し日々のケアサービスに反映させていく取り組みを行っていく。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者が、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会は設けていない。	○	今後、運営者や管理者と検討していきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者本位の暮らしを実際に支援できる人員配置になっている。夜間等一人で対応が困難な場合は、休みの職員に出勤を依頼している。 職員の急な休みに対しては、非常勤に延長勤務を依頼したり休みの職員に出勤を依頼する等体制を整えている。	○	今後も、勤務体制については柔軟に対応できる体制を継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を必要最小限に抑えるために職場環境を整え努力をしている。異動はほとんど行っていない。	○	今後も、新しい職員への引継ぎや利用者への説明を丁寧に行っていききたい。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の確保・向上に向けた育成の必要性を認識しているが、具体化するための方針は示されていない。研修計画は作成しているが、職員の個々の力量や経験に対応しているとはいえない。スーパーバイザーについては確保していない。	○	運営者と協議し、積極的に取組んでいきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と協議会を年間4回行い、情報の共有や交流を図り、共同での勉強会も計画している。入居者も直接訪問し入居者間での交流も図っている。青森市内の同業者とも見学や訪問を通して交流を図り、日々のサービスの向上や職員育成に努めている。	○	今後も、近隣や青森市内の同業者とも交流を図りサービスの向上に取り組んでいきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいるが十分ではない。	○	職員のストレス軽減のために運営者と検討していききたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。	○	今後も、職員のやりがいや向上心が持てる職場環境になるよう運営者と検討していききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること不安なこと等をよく聞く機会を作り信頼関係を築くことを意識しながら対応を行っている。	○	今後も相談を受ける際には利用希望者と家族との信頼関係を築くことを意識しながら対応を行っていく。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、本人と家族のニーズを把握し必要としているサービスを見極め、他のサービスが必要と思われる時は他のサービスを利用できるよう連携を取り支援している。担当の介護支援専門員とも連絡を取り、情報を収集している。	○	今後も取り組んでいく。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、見学に来ていただいたり、職員が訪問したりして馴染みの関係を築き入居して頂いている。	○	特にサービスの利用開始にあたっては混乱することのないよう地域に開かれたホームづくりを行い、見学だけでなく気軽に遊びに来れるような関係をつくっておき、安心して入居できるよう支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と喜怒哀楽を共感し理解するよう努めており、利用者には得意分野で力を発揮してもらおう等支えあいながら生活している。	○	今後も取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話連絡などのときに情報交換を行い十分に家族の気持ちを受け止め利用者を共に支える関係を構築するよう努めている。	○	今後も取り組んでいく。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、双方への思いを把握し家族との関係が途切れない様定期的にホーム便りを発行したり、面会を促したり、電話連絡などをして働きかけを行っている。	○	定期的に家族と情報交換を行い、利用者と家族の絆を大切にしていきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所について把握している範囲で関係が途切れないよう支援しているが、情報が十分とはいえない。	○	利用者がこれまで関わってきた人や、馴染みの場所についてもっと情報を収集するため、家族から聞いたり昔の写真などを持ってきてもらい関係継続の支援をしていきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活において楽しく生活してもらうために利用者同士の関係が大切なことは十分理解している。利用者同士の関係を把握し、持っている力、個性を活かしてもらうことにより、より良い人間関係作りにつながる働きかけを行っている。	○	認知症で様々な周辺症状のある利用者同士の関係作りは大変難しいものがあるが、これからも真剣に取り組んでいきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了時には、他の機関との連絡調整を図り、その後はそちらの介護支援専門員にまかせているが、相談がある時は対応している。	○	今後も、契約終了後に継続的な関わりを必要とする利用者や家族に対しては、継続して支援していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、家族から情報収集し、希望・思いの把握に努めている。	○ 今後も取組んでいく。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当の介護支援専門員等と連携し、プライバシーに配慮しながら、これまでの生活歴・馴染みの環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。	○ 今後も取組んでいく。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ全員で見た生活のリズム・残存機能・精神状態・体調の現状の把握に努めている。	○ 今後、更に現在の把握している部分以上に日々、変化しつつある部分の把握に取り組みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人にとって、暮らしの中に、その人らしさや家族の意向を反映させた計画を作成している。	○ より良い暮らしを感じてもらう為に、家族の面会時には今以上に情報収集し、アイデア等を集める。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間ごとの見直しには、本人の状態や家族の意向、スタッフの意見を反映させるようにしている。	○ 介護支援専門員を中心に全スタッフの視点を集め、見落とししている部分がないか、カンファレンスを活用していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中での状態等、発言も含め、又、職員とのやりとり等も計画の作成に活かしている。	○	新しい発見等があれば、状態観察としてありのままに記録し、より良いケアの実践に活かしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族からの要望に応じ、例えば、外出支援や必要物品の買い出し等を行っている。	○	今後も、本人・家族からのニーズに応え、柔軟な支援を継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日頃からは勿論の事、行事や祭りの際には、参加の呼びかけや、教育機関へ参加させて頂いている。	○	今以上に、地域にある公共機関での催しや、教育機関での行事の情報を集め参加させたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や、家族の意向を取り入れ、他事業所のケアマネと連絡を密にし、連携を図っている。	○	今以上に、他事業所の介護支援専門員との情報を共有しながら、入居者にとって良い支援をしたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	判断困難と考えられた場合や、必要に応じて、相談・協力する体制を整えている。	○	地域包括支援センターと、今後に向けてより良い関係・連携を図っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在までの既往歴を把握したうえで、本人・家族の希望を中心に、なかには、地域医療連携機関への紹介状というプロセスを経て支援している。	○	今後も継続していきたい。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の状態や変化に応じ、家族と連絡を密にし、的確な受診を支援している。	○	今以上に、専門医に入居者の現状を的確に伝え、本人にとってより良い治療が受けられるよう支援していく。
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師資格を持つ職員を配置し、医療面、又は、生活面において、管理・支援している。	○	今以上に、看護職員の経験を活かした視点で入居者の健康管理や医療活用の支援をしていく。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中から退院までの中で、家族又は本人に不安等を感じさせない様、医療機関と早期退院に向け情報交換・相談等連携を図っている。	○	今後も一層、病院側と連携を密に早期退院に向け取り組んでいく。
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、将来（終末期や重度化）へ向けた説明と話し合いを行い、方針を共有している。	○	入居時だけでなく、定期的に本人や家族と重度化に直面した際に向けての方向性について、話し合っていきたい。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や、終末期には対応していない。	○	将来へ向け、勉強会・研修等を通じて取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	職員は、家族の協力を得ながら、利用者の希望、習慣、プライバシーに配慮し、移行先への情報を共有している。	○	本人の目線になって、住み替え時のダメージを極力少なくする様に努めたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、守秘義務や、プライバシーの保護を徹底し、日頃の介助時や、声がけ時の対応には、細心の注意を払っている。	○	日々の生活の中で、全入居者に目と言葉が行き届く様な介護に努めたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	決して職員の考えを押し付けず、表情や訴え等から、本人の意思を引き出し、支援している。	○	ゆっくりと、入居者に合わせた声がけと態度で、意思疎通を図りたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個別性を尊重し希望を問いながら声がけやアドバイスを行い日々支援している。	○	今後も一人ひとりのペースを大切に支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類や整容の乱れはスタッフが注意を払い整えている。又、希望者は、馴染みの理・美容店を利用していただいている。	○	今後も継続して取り組み、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝える方には、下準備から行ってもらい、楽しんで食べられる様に工夫している。後片付けも行ってもらい、家庭的な雰囲気を心がけている。	○	今以上に、会話を盛り込み楽しみながら一緒に支度をしていきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒を飲む方はいないが、お気に入りの飲み物、おやつ、たばこ等は、適量、見守りながら、味わって頂いている。	○	今以上に本人が好むものを提供していきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄習慣を観察し、気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	排泄の自立支援の為、これからも取組んでいきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意思を伺い、無理に勧めたりはせず、体調の管理を行いながら、時には歌を歌ったりと入浴を楽しめるよう支援している。	○	今以上に、入浴中の会話にしても、本人の好きな内容に集中したり、歌を歌ってもらう等、入浴が楽しめるよう支援していく。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠障害のある方は眠剤を内服してもらい、又、静かな安心した環境で休息・安眠出来る様、支援している。	○	入居者、スタッフ共に騒々しく無く、不快さを感じさせない様にしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇・畑の手入れ、食事準備、掃除等、入居者一人ひとりの生活歴や残存能力を考慮し、役割を通していきがいを持って日々過ごせるよう支援をしている。	○	できるだけ長く継続できるよう支援していく。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方、お金が手元に無いと不穏になる方には家族の了承を得て管理していただき、支払いも行っていただいている。	○	今後も継続して取り組んでいく。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	購入希望があれば、近所のスーパーと一緒に出かけ、天気の良い日は、入居者の状態に合わせてドライブ・散歩等に出かけ気分転換を図っている。	○	今後も入居者一人ひとりの希望を把握し、外出の機会を増やすことで地域とのつながりを継続するよう努めていきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人から希望があった場合、家族に相談し、実現できるよう支援している。 家族の都合がつかない場合は職員が代行し外出支援している。	○	今後も継続して取り組んでいく。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた際は、封を切らず入居者が最初に目を通すようにしている。手紙を出したり、電話の利用は自由であり、出来ない部分は介助している。他人に聞かれたくない内容の場合は、事務室の電話を使用していただいている。	○	今後も継続して取り組んでいく。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は都合に合わせて柔軟に対応している。家族の訪問時は近況を伝え情報の共有を図り、飲み物を提供しゆったり過ごせるよう配慮している。自宅等への宿泊も家族に相談し積極的に支援している。	○	現在まで家族が宿泊する事例は無いが、希望があれば寝具・食事等用意する体制は整えている。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在まで身体拘束が必要な事例は無いが、全職員が身体拘束になる行為を理解している。やむを得ず拘束を行わなければならない場合は家族の同意を得ると共に、記録に残すこととしている。	○	やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え拘束の理由や期間、方法等を記録する様式を整備する予定である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵は設置していないが、施錠しないと不穩になる入居者の場合、本人の希望に応じチェーン式の鍵を使用している。 玄関は日中は施錠せず、外出傾向を察知した場合は引き止めず、一緒に外出するよう支援している。無断外出に備え、民生委員・近隣住民に協力を働きかけている。	○	今後も地域住民への協力を働きかけていく。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、ホーム内を見渡せる場所に居て、夜間は2時間おきに巡回し、入居者の様子を把握している。 居室内はスタッフの目が届かない為、転倒の危険性がある入居者についてはナースコールを設置している。	○	状態変化を敏感に察知できるよう、スタッフの資質向上に取り組んでいく。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物・薬品等注意の必要な物品は目に付かない場所に保管している。異食行為が見られる方が居る場合は、洗剤等も目に付かない場所に保管している。	○	入居者の状態に応じ柔軟に取り組んでいく。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハット事例があれば報告書を提出し、全職員で再発防止に向けた話し合いを行っている。 入居者の状態に応じ想定される事故について、その都度、最適な防止策を検討している。	○	ヒヤリハット報告書の提出が増えるよう呼びかけていく。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各種緊急時対応マニュアルを作成し、目に付きやすい玄関に置いている。 緊急連絡網を整備し、定期的にテストしている。	○	外部に出向き、全職員が応急手当や救急救命の訓練を行う予定である。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、日中・夜間を想定した避難・消火訓練を年2回行い、地域住民等への協力も働きかけている。 災害時に備え、飲料水、食料等を数日分用意している。	○	災害時の対策について、今後も地域住民への協力を働きかけていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人ひとりに起こり得るリスクを把握し、家族と最適な方法を話し合い対応している。状態変化時はその都度見直しを行っている。	○	今後もより最適な方策を見出せるよう努めていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の持病等を把握し、異変の兆候を見落とさないよう、常に顔色や様子に注意を払っている。変化や異変の兆候があった場合には記録に残すとともに全職員で共有し、必要に応じて救急体制の整っている協力医療機関に相談、受診するとともに家族に報告している。	○	より敏感に察知できるよう職員の資質向上に努めていく。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を全職員が常時確認できるよう個人ファイルに整理、保管している。飲み忘れや誤薬が無いよう必ず確認している。薬の変更があった場合は連絡ノートで全職員に周知し、服薬による状態変化時は記録に残すとともに、医療機関に相談、調整している。	○	今後も重点的に取り組んでいく。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩や体操等で適度な運動を促したり、バランスの摂れた食事を提供し、自然排便できるよう努めている。便秘がちな方には下剤を個々に合わせて頻度を調整し服用していただいている。	○	今後も取り組んでいく。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔内の洗浄や義歯の手入れを促し、できない方は最小限の介助を行っている。習慣により昼は磨かない方もいるので強制していない。	○	今後も取り組んでいく。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリーと栄養バランスに配慮した献立を作成し、嗜好に合わせ別メニューも作っている。全入居者の食事・水分摂取量を体調チェック一覧表に記録し対応している。	○	今後も取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防・対応マニュアルを作成し、感染症に関する情報を収集した場合は、見直しを行っている。また、必要に応じて家族に周知することとしている。	○	感染症の流行や予防等の動向の把握に努め、感染症予防の為支援していく。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理用具の清潔を保持するためのマニュアルを作成し、全職員に周知している。食材担当が在庫を確認し、余った食材は漬物や別メニューにすることで無駄がないよう努めている。	○	今後もホームで採れた野菜等新鮮で安全な食材を使用し、無駄の無いよう努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や建物周囲に花を植えたり、畑に季節の野菜を植えることで、家庭的で明るくなるような雰囲気作りを行っている。	○	もっと親しみやすくなるよう工夫していきたい。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、テーブル等に季節に合わせた花を飾り、感覚を刺激するような雰囲気作りを行っている。職員の会話のトーン、テレビ・音楽の音量を適度に調整し、不快に感じることはないよう努めている。室内が適度な明るさを保てるよう、その都度調整している。	○	地元ならではの調度品を増やし、なじみの生活が継続できるよう支援していく。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりの畳・食卓テーブル・ホールソファにて、気の合う入居者同士が思い思いに過ごしている。また、座る場所を決めお互いに混乱する事なく安心した共用空間になるよう工夫している。喫煙者がストレスをため込まないよう、喫煙場所を玄関に確保している。	○	作業や遊びを通じ、皆が楽しめる機会を増やすよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた家具や食器等、馴染みの ものを持ってきてもらうよう家族に働きかけを 行っている。家族写真等を持参していただき、居 室に居ても寂しさを感じさせないよう支援してい る。 方角を気にする方に合わせ、ベッドの位置を変え ている。	○	なじみの物がほとんど無い入居者の居室作りを工 夫する必要がある。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	臭いがこもらないよう事業所内は24時間換気を 行っている。 温・湿度管理は入居者に合わせて調整している。	○	今後も取り組んでいく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	転倒につながるものは通路に置かず、手すりは廊 下・居室等要所に設置している。 流し台・洗面所は高齢者に使いやすい高さのも の、車椅子対応のものを設置している。 車椅子は必要に応じて使えるよう用意している。	○	今後も身体機能に合わせ、最適な生活環境づくりに 努めていく。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室が分からなくなる入居者の場合、本人・家族 の了承を得て、通路から分かるよう名前を表示し ている。 トイレ・浴室の場所は分かりやすいよう暖簾等で 表示している。	○	状態に合わせた環境づくりに努めていく。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	花壇、畑を活用し、馴染みの仕事を通じ、生きが いを持って生活できるような環境を整えている。	○	玄関先やベランダにベンチを設置し、天気の良い 日にくつろげる場所を確保する予定である。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)